



発行日：平成 25 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 15 回川部会 WG を開催しました！

第 15 回川部会WGでは、本川モデルと家下川モデルに対して、参加者全員による意見交換を行い、情報共有と解決の方向性について検討を深めました。

日時：平成 25 年 11 月 26 日（金）
18:00～21:30
会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室
参加者：22 名（事務局含む）

◆WGで決まった主な内容

- 本川モデルについて、治水上の制約を考えつつ、白浜工区（順応的管理手法）の経過を観察して、低水路幅の拡幅後の河道の応答を確認しながら、WGとして矢作川の河川環境の多様性を保全・創出していくための解決策について検討していくこととした。
- 家下川モデルについて、排水機場の耐震対策の改修に伴い、長池 - 承水溝の水門位置を変更する必要があることから、段差解消の可能性をWGで検討する。また、承水溝の浚渫については来年度に実施する予定で、その浚渫方法についてWGで検討する。
- 来年度までWGの活動が停止してしまわないよう、2～3月にWGや勉強会などで、検討がつけられるとよい。



WGの様子

◆意見交換内容

1. 本川モデルワーク

第 14 回WGに引き続き、瀬・淵など川のあり方、理想像、方向性等について意見交換を行いました。主な意見交換の内容は以下の通りです。

- ・ワーキングには、「知るということ」と「アクションにつながっていくこと」の2つがある。また、「流域全体を考えるレベル」と「どういう応答になっているかという現場レベル」で考える必要がある。双方のバランスをとりながら、議論を進めていければよいと思う。（鷲見）
- ・瀬・淵の現状をどう考えているかについても整理しておく必要がある。（内田）
- ・川が複雑に入れ替わったり、変化したりする場所は、水生昆虫にとってもよい環境だと思う。（内田）
- ・今の状況下でできることを考えることが、まずWGの出口（結論）の一つ。もう一つは、根本的な問題としての土砂や流量の話があり、土砂については、土砂管理検討委員会で検討されていることから、WGでも考えてみるとよいと思う。（鷲見）
- ・時間による変化と川の縦断的な変化の有無があり、それらを把握した上で、現状を保全していく場所と改善を求めていく場所を設定してみてもどうか。（光岡）
- ・瀬淵は、現状のままでも縦断的に連続して存在し続けると思うが、横断的なギャップは大きく、浅瀬が少ない状況である。ちょっとした雨でも川幅が変化するような場所ができるとよい。（阿部）
- ・漁協では、アユの釣りやすい釣り場を固定する取り組みが行われてきた。漁協との議論も必要になる。（内田）
- ・川の中の場の割合の議論だと思っており、どういう多様な場を、どれだけのエリアにどれだけの割合を配置していくかを考えていければよいのでは。（鷲見）
- ・漁協は川幅を狭くして釣り場を作りたいのかもしれない。低水路を狭めて掃流力は強くなったが、アーマー化が進んでいる印象である。（阿部）
- ・どこにどういう場所があるかをパターン分けしていくことをやってみてもどうか。（鷲見）
- ・そのためには、地形を把握する必要があり、航空レーザー測量ができるとうい。（内田）
- ・昭和 47 年洪水は、矢作ダム建設前の出水なので、詳しく調べれば矢作ダムがないときの状況がわかるのではないかと。土砂を考える時に、矢作ダムの検討をはずすわけにはいかないと思う。（本守）



モデルワークの様子

- ・下流のダム群について、中部電力に協力してほしいところである。(内田)
- ・愛知県の整備計画を立てようとしている河川については、粒径調査をしている可能性がある。(愛知県)
- ・国交省と愛知県で、統一的な考え方で整備していくことを提案していくことも考えられる。(内田)
- ・治水上の検討をしっかりとっていただいた上で、WGとしての提案が可能になると思う。(本守)
- ・川幅の制約条件があるのであれば、それを利用して、狭くなるところと広がる場所の両方できることの多様性を担保できればよい。(鷺見)
- ・河道拡幅について、高橋付近はまだ具体化していないが、白浜工区右岸について具体化する可能性がある。(小林)
- ・白浜工区は、これまでに洪水を受けているので、どういった変遷をしたかの結果を踏まえて、河道拡幅に対する提案ができるとうよい。(鷺見)
- ・白浜工区をモニタリングすると、池やせせらぎが閉塞し、石を積んだところに土砂堆積するなど状況が変化している。一年中、小さい魚がいることは観察できている。(小林)
- ・白浜工区の低水路拡幅箇所は、元々土砂が堆積していた場所なので、元に戻ろうとしている。(阿部)
- ・治水上の制約を考えながら、白浜工区の状況を見て、川幅を広げてみたらどうなるかを観察しながら、矢作川の河川環境についてWGとして検討していきましょう。(内田)

2. 家下川モデルワーク



家下川リバーキーパーズの安部氏より情報提供があり、今後の検討の方向性について意見交換を行いました。

- ・上郷排水機場改修に合わせた承水溝の浚渫について来年度に実施する予定と聞いており、浚渫の仕方について提案を実施できる時間ができた。(阿部)
- ・震災対策で排水機場位置を移動して改築を計画(H27~32年頃)しており、長池 - 承水溝の水門位置を移動する必要があると聞いている。長池 - 承水溝の段差解消を考える機会であり、流域圏懇談会として管理者に提案できるとよい。(阿部)
- ・長池 - 承水溝の水門付け替えについて、懇談会として検討したいことを管理者に依頼していくこととする。(鷺見)
- ・長池の水源になっている宗貞川の状況について、現地を確認する必要がある。(本守)

3. 次回以降のワーキングについて



今後の川部会WGのすすめ方も含めて、次回以降のWGについて意見交換を行いました。

- ・毎年ではあるが、12月以降にWGが開催されず議論が止まってしまうのは良くない。来年度のスケジュールは、全体会議をやらずに地域部会で取りまとめを行い(とりまとめの簡素化)、冬期間にもWGを継続できるようにしてもよいのでは。(鷺見)
- ・年度も2~3月にWGや勉強会などを開催して、議論が継続できるとよい。(内田)
- ・WGの3つ目の役割として、WGの活動内容をまとめて形にすることがある。(鷺見)

今後の川部会WGの予定



- 第16回(本川モデル+家下川モデル)
日時：平成25年12月20日 18時~20時半
場所：豊田市職員会館
活動内容：地先の課題モデルの課題と解決の方向性について/家下川下流の環境について

- 第4回川の地域部会
日時：平成26年1月16日 15時~
(2時間程度を予定)
場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

